

2023年4月19日 『朝礼時法話～報告事項』

(1) 法話概略【要(かなめ)づくりは暮らしの土台づくり】

今年度最初の朝礼となります。元々は毎週1回の朝礼の場があったと聞いていますが、初代苑長・受宣さんが逝去してからは、毎月7日開催が定着していました。そして現在に至っています。この朝礼の場で、宗教や仏教などの非日常の世界観に触れる時間を創りたいと思いながらお話ししています。

さて、宗教の『宗』という字は「むね」と読みます。日本の常用漢字で、他に「むね」と読む漢字は3つあります。1つ目は話の趣旨・会の趣旨などの『旨』、2つ目は建物、上棟式などで使われる『棟』、3つ目は体の部位の『胸』、そして先ほど述べた『宗』の4つとなります。この4つの『むね』は、其々違う場面で使われている字ですが、共通の意味合いがありまして、どれも「**その見えていない部分に大事なもの、「要(かなめ)」がある**」とされています。順番に観ていきますと、

『旨』は先に述べたように、話の趣旨や会の趣旨等で使われるように、話の趣旨がしっかりしていないと相手にはその思いは伝わらないし、会の趣旨も明確な軸となるもの、目指す方向性がしっかりしていればこそ、他から賛同・協力してもらえるとというものになっていくものでしょう。

『棟』は屋根の上部をつなぐ柱であり、その内部の柱がしっかりしていなければ、どれだけ外側がキレイであっても安心して暮らせません。災害時にはこういった中の柱が損壊してしまい、外側が何となくでも使えない家屋になってしまう事もあります。

『胸』は説明が不要くらいですが心臓部ですね。心臓は外から見えませんから忘れがちですけど、

自分が起きている時も寝ている時も、喜怒哀楽のどんな時も心臓が動き続けてくれている。おかげで今日も生きられている欠かせない所です。

『宗』は宗教の字ですが、「より所」や「要」の意味があります。扇子の繋いでいる部分を「要」と呼びますが、そこがしっかりしていなければ、扇子の骨組はバラバラになるし、良い風が送れませんよね。宗教とは、暮らしの中の「要」であり、人生の「要」を表すものであります。



初代苑長から受け継がれた光寿会の理念は、『**生きる意味を発見し合える道場としたい**』です。この理念を「要」として、事業計画が立てられ、光寿会の現場の対応へと繋がっていきます。皆さんに立案してもらった各目標設定も、各部署・各ユニットの『要』を作っていくものです。それぞれの要となる目標や方針を立てて、日常の仕事の中で、何度もその要を確認しながら、関わりを深めていく。

『要』づくりは、正に一つの方向に向かって従事するために大切な作業です。宜しくお祈りします。

(2) 連絡事項について

- ① 本日の対面面会は1件です。I.Kさんが10:30からありますので、宜しくお祈りします。
- ② 本日のショートステイは3名です。午前中に入ります。
- ③ 11時から苑内研修委員会を行います。関係者は交流ホームに集まって下さい。
- ④ 先ほど講話でも述べましたが、今年度の目標設定の時期となりました。各部署・各ユニットにて宜しくお祈り致します。
- ⑤ 先月滞りましたが、『動きだしんぶん』今月号です。其々お目通しください。

【講話、④～⑤＝理事長 ①＝生活課長 ②＝生活相談員 ③＝研修委員長代理】